

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成 28 年 6 月 20 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 博士後期3年

氏 名 張 平 星

| | | | |
|------------|--|-------------------|----------|
| 助 成 の 種 類 | 平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成 | | |
| 研 究 集 会 名 | 第8回ICON-LA ランドスケープ国際学会:都市オープンスペースと景観:新たな解決の道を探す 8th ICON LA Landscape Architecture International Conference:Open urban space and landscape architecture: searching for new solutions | | |
| 発 表 題 目 | “White-sand spaces” in Kyoto Shinto shrine precincts: Preserving local characteristics of open religious space in a historic city | | |
| 開 催 場 所 | Marble Palace, St. Petersburg, Russia | | |
| 渡 航 期 間 | 平成28年6月6日 ～ 平成28年6月12日 | | |
| 成 果 の 概 要 | タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有() | | |
| 会 計 報 告 | 交付を受けた助成金額 | 350,000円 | |
| | 使用した助成金額 | 350,000円 | |
| | 返納すべき助成金額 | 0円 | |
| | 助成金の使途内訳 | 査証手数料・大阪領事館往復の交通費 | 12,000円 |
| | | 京都～成田空港往復の交通費 | 30,000円 |
| | | サンクトペテルブルク往復の航空賃 | 138,000円 |
| | | 現地交通費 | 13,000円 |
| | | 学会参加費 | 15,000円 |
| | 宿泊料 | 82,000円 | |
| | 日当 | 60,000円 | |
| 当財団の助成について | (今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) このたび、国際会議の口頭発表者に選ばれたが、ロシア往復の旅費だけで大学院生にとっては厳しい負担です。採択の結果発表日の2～3週間後にすぐ開催する学会でしたが、ご支援をいただき、大変感謝いたします。さらに手続きも非常に簡便で、早速助成金をいただいたおかげで、無事に学会出席することができました。若手研究者の国際発表に対する経済的援助が人材育成や国際交流において大変有意義であると思いますので、今後ともぜひこの助成事業を継続されるのが心から願います。 | | |

成 果 の 概 要

農学研究科・博士後期課程 3 回生・張平星

- ・研究集会名と主催者

8th ICON LA Landscape Architecture International Conference:

Open urban space and landscape architecture: searching for new solutions

(第 8 回 ICON LA ランドスケープ国際学会：都市オープンスペースと景観：新たな解決の道を探す)

サンクトペテルブルク市政府、サンクトペテルブルク林業技術大学、スウェーデン農業科学大学

- ・開催地と開催期間

ロシア連邦・レニングラード州・サンクトペテルブルク市・大理石宮殿

平成 28 年 6 月 7 日～平成 28 年 6 月 10 日

- ・報告者の発表題目

“White-sand spaces” in Kyoto Shinto shrine precincts:

Preserving local characteristics of open religious space in a historic city

(京都の神社の「白砂空間」：歴史的都市における宗教的オープンスペースの地域特性の保全)

「ICON LA ランドスケープ国際学会」は 2 年ごとに開催されており、欧米からの研究者や景観デザイナーが中心となった活発な国際集会です。今年の第 8 回は都市景観をテーマとしており、ロシアの歴史的都市・サンクトペテルブルクで開催していました。

6 月 8 日の中心会議はサンクトペテルブルクの中心部にある 18 世紀に造られた大理石宮殿の大広間で行いました。当日は「サンクトペテルブルク市長やサンクトペテルブルク林業技術大学の学長などの挨拶 → 講演者 5 人 (30min/人) → 口頭発表者 14 人 (15min/人)」の流れでした。都市オープンスペースの設計や計画に関わる研究者・デザイナーから都市計画に関わる行政の策定者までを含み、合計約 100 人が出席していました。講演者と口頭発表者のほとんどはロシア・スウェーデン・ドイツ・イギリス・イタリア・ギリシャからの研究者でした。日本からの参加者は私のみ、東アジアからの参加者は他 2 名でした。

学会では景観デザイン・都市計画・生態保全学などの幅広い専門家が二つのサブタイトル (A. 歴史的都市におけるオープンスペース：革新的な解決の道を探る、B. 現代都市における都市空間の設計と計画：社会学と生態学の視点からみる) について発表・議論を行いました。そのうち、Maria Ignatieva 教授の「都市緑地としての芝生の拡大に伴う景観の地域性の喪失」・Alessio Russo 先生の「食べられる街路樹 (果樹) による都市デザイン」・Susan Paget 教授の「子どもの遊び場を配慮した都市空間」など、大変興味深い話題を聞きました。

私はサブタイトル A の発表者に選ばれ、京都における独特な宗教的オープンスペースについて、日本の伝統的な空間配置・材料利用を紹介しました。

京都の数多くの神社の前庭には「白川砂」と呼ばれる京都の東山から採取した貴重な花崗岩の白砂が敷かれてきました。この白砂空間は「神域」とみなされますが、現在で市民交流や文化体験の場としても機能する独特な都市オープンスペースです。しかし、1950 年代に白川砂の採取が法律で禁止された後、神社の白砂空間の変質や消失が危惧されています。本研究は京都都市部の歴史的神社 20 ヶ所のうち、6 神社 (8～17 世紀創立) で白砂空間の存在を確認し、空間構造と材料利用の視点から京都の神社における白砂空間の現状を解明し、地域性の保全対策を考察しました。

英語での発表は講演稿が見られないにもかかわらず、時間をうまく把握したうえでスムーズに進みました。発表後、座長のスウェーデンの Per Berg 教授と、日本の神社が自然災害（例えば東日本大震災）での役割とその立地条件との関係について興味深い意見交換をしました。

ヨーロッパ諸国の参加者に分かりやすいように、日本文化・京都という都市の歴史と自然環境・神道と神社などに関する紹介や古絵図をスライドの背景部分に入れました。セッション後のコーヒートークで数人の参加者に話しかけられ、面白い交流ができました。日本の歴史的都市空間における精神性や地域性を西洋に景観デザインや都市計画のアイデアを与えたことは、とてもよかった点であると思います。

また、学会のエクスカージョンで 20 人ほどの研究者とサンクトペテルブルクの都市景観や世界遺産に指定された建築・庭園を見学しました。案内者のスウェーデン農業科学大学の Maria Ignatieva 教授は、サンクトペテルブルク郊外の離宮・ペテルゴフの修復技術について詳しく説明していただき、日本とまったく違った歴史的都市や歴史建造物の設計理念と設計方法から大きな刺激を受けました。

今回の国際会議を通して、博士後期課程の研究成果の一部を欧米の産学民官の参加者にアピールし、グローバルな都市景観や生態保全の研究手法と研究成果についての意見交換を行いました。今後は意見交換の成果を博士後期課程の最後の一年の研究成果の総括に反映させ、よりレベルの高い博士論文に仕上げていきます。

なお、視野が広め、博士後期課程を修了した後の新しい研究方向に導く可能性が高いと思います。また、様々な分野の研究者と多く知り合えて、将来は分野横断的・国際的なネットワークの構築に向けた足掛かりとすることができました。

最後に、本助成により今回の国際会議で発表し、ヨーロッパ諸国の研究者と交流を深めることができました。心から御礼を申し上げます。



報告者の口頭発表の様子
(2016年6月8日・サンクトペテルブルク・大理石宮殿)